

令和3年度 西東京市立芝久保小学校 学校自己評価表

＜学校教育目標＞		自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。 ○粘り強く考える子 自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる ○仲良くする子 生命の尊さや自他のよさに気付き、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる ○元気に活動する子 健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、進んで心身を鍛える児童を育てる										学校関係者評価 A・・・評価は適切である B・・・評価に一部改善が必要である C・・・全体的に改善が必要である				
＜目指す学校像・児童像・教師像＞		学校教育の成果を継承しつつ、「不易」と「流行」を見極めて、改革・改善を図る。創造性と先進性のある学校経営を進め、保護者や地域の信頼に応える学校を目指す。 ○目指す学校像 児童の学びを大切に、保護者、地域とともに歩む学校 ○目指す児童像 進んで学び、よく考えて判断し、発言し行動する児童 ○目指す教師像 教育のプロとしての自覚と、誇りと情熱をもった教師														
領域	中期経営目標	番号	短期経営目標	具体的方策	努力目標		成果目標		教職員		アンケート	評価(%)	分析	改善策	学校関係者評価欄	
					学年	評価	学年	評価	学年	評価					評価	意見
豊かな心の育成	生活指導・人権教育の充実	1 健	異学年交流を通して、心豊かな思いやりのある児童の育成	ペア学年活動などの異学年交流を認め、互いに認め合い協力できる指導を実践していく。	4	月1回以上実施	④	児童の取り組んでいるという評価80%以上	①	2.3	児童	90	・全校児童でのたてわり班活動から、2学年ごとの活動に変更したことで、計画や活動のしやすさが向上した。 ・少人数での活動により、児童同士の関わりが強く、達成感や満足感が向上した。 ・活動の準備段階が下学年に伝わりづらかったため、教員の実施回数の認識にずれが生じている。	・異学年交流については、今年度に変更した点も多く、初めて実施するものもあった。次年度に向けて今年度の反省を踏まえ、活動内容や児童の関わり方の素地をきちんと構築して次年度の活動につなげていく。 ・ペア学年の実施日とその回の大まかな内容を健やかに支援部会が計画し、学年間のずれを減らしていく。	A	・コロナ禍でもできる限りの交流を図っている。改善に向けて努力していることがわかった。 ・異学年との交流により、年上の人、年下の人に対する対応を学べるのはとても良いことだと思う。 ・教員同士の意思疎通ができてきている成果で、助け合い協力し合える関係が広がってくる。 ・芝久保アミューズメントという形で異学年交流を実施してよかった。
					③	2か月1回実施	3	児童の取り組んでいるという評価70%以上	③	2.0						
					2	学期に1回実施	2	児童の取り組んでいるという評価60%以上	④	3.0						
		2 学	児童一人一人を大切にしたい指導の実施	人権教育の推進を通して、よさを認め、あたたかな心を育む指導を実践する。	④	90%以上の授業で実施	④	保護者の取り組んでいるという評価80%以上	①	3.3	保護者	96	・「西東京あったか先生の取組」に関する教職員研修を月に1回、日時・内容ともに計画的に行っているため、よさを認め、あたたかな心を育む指導を実践できている。	・引き続き、教職員研修を行い、よさを認め、あたたかな心を育む指導を実践していく。 ・「あったか先生」として、分かる授業を目指す、温かく正しい言葉遣いをする、話を聞いて聞いて聞き、受け止める、良い行動はしっかり褒め、良くない行動は心を込めて冷静に指導する、呼び捨てにせず「～さん」と呼ぶことを引き続き実践する。	A	児童アンケートの回答で「困ったときに先生は声を掛け、助けてくれる」に「そう思わない」と回答した児童がいることが気になる。
					3	80%以上の授業で実施	3	保護者の取り組んでいるという評価70%以上	②	3.5						
					2	70%以上の授業で実施	2	保護者の取り組んでいるという評価60%以上	③	3.0						
3 健	健康に関する教育の啓発・指導の計画的な実施	「手洗い」や「三密対策」など感染症予防の取組や指導を養護教諭と連携して行う。	④	毎日実施	④	児童のできているという評価80%以上	①	3.3	児童	95	・昨年度からの新しい生活様式を継続的にを行い、毎日の検温や手洗いを習慣化することができた。 ・昨年度と比べると、検温や手洗いへの意識が、以前よりも低くなっている児童も見られた。	・手洗いの重要性、健康・安全に対する理解を高める指導を改めて行う。 ・引き続き、感染症対策に努めることで、より一層、自己と他者の健康への意識と配慮を高めていく。	A	・コロナ禍で学校の感染対策は行事を含めとてもできていると思い、安心している。 ・栄養士によるタブレットでの食育の取組は非常に興味があり良いと思う。 ・学校施設は冷たい水道水で手洗いを行っている環境がずっと続いている。建て替えなどの際には、お湯が出るようにしてほしい。		
			3	週に4回実施	3	児童のできているという評価70%以上	②	4.0								
			2	週に3回実施	2	児童のできているという評価60%以上	③	3.5								
4 健	いじめの未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止に関する授業や教職員の研修を行う。また、いじめ調査や情報交換を定期的に実施し、実態把握や対応に組織的に取り組む。	④	児童への授業と教職員の研修を合計年5回以上実施	④	保護者の対応・対応しているという評価80%以上	①	3.0	保護者	93	・教職員間や保護者との間で連携がしっかりとれていたことが、評価につながった。 ・毎学期のいじめ調査と聞き取り対応、いじめ防止に関する授業、年3回以上の校内研修での取組を継続的に続けてきたことによる成果と言える。 ・学期初めの全員面談を実施したことも、早期発見、早期対応に役立った。	・保護者や関係機関と今後も情報の共有や細かな連絡を継続して行っていく。 ・年3回のいじめ調査、全員面談、いじめ防止授業、校内研修等を次年度も継続して実施する。 ・いじめ防止対策について基本方針や授業、研修等の様子を保護者や地域に発信していく。	A	・芝久保小はとても落ち着いていると思う。 ・問題が発生したときに、個々だけではなくすぐに学年全体の面談を実施したと聞き、迅速な対応に安心した。 ・保護者アンケートで、あまりそう思わない、そう思わないと回答した人がいることが気になる。		
			3	児童への授業と教職員の研修を合計年4回実施	3	保護者の対応・対応しているという評価70%以上	②	4.0								
			2	児童への授業と教職員の研修を合計年3回実施	2	保護者の対応・対応しているという評価60%以上	③	3.5								
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	5 学	児童が主体的、対話的に学べるようなタブレットを活用した指導の実施	タブレットを使った効果的な指導法を共有化し、授業・家庭学習で実践する。	4	週に5回以上実施	④	児童の活かしているという評価80%以上	①	1.7	児童	89	・4月から、タブレットを授業で取り入れることを積極的に進めてきた。児童がタブレットを活用する良さを感じながら活用していると考えられる。 ・オンライン授業期間や全教員の研究授業等による指導法の共有化を経て、低学年でもタブレットを有効的に活用することができた。使うことによって課題や成果が見えてきた。	・今後も授業でタブレットを積極的に使い、効果的な指導法を検討していく。 ・低学年は教科書とタブレットでランドセルが重くなってしまうことがあるが、配慮しながら意図的にタブレットを活用する場を作っていく。	A	・タブレットの家庭での使い方については保護者の協力が必要である。 ・子どものランドセルが本当に重く、驚いた。対応をお願いしたい。 ・可能であれば時間割は「連絡帳」への記入をお願いしたい。書くことは大切だと思う。
					③	週に3～4回実施	3	児童の活かしているという評価70%以上	②	2.5						
					2	週に1～2回実施	2	児童の活かしているという評価60%以上	③	1.5						
		6 学	思考力・判断力・表現力等の育成	書く内容を明確化し、自分の意見を書く時間を十分に設定する。	④	90%以上の教科及び単元で実施	④	児童のできているという評価80%以上	④	3.0	授業では、自分の考えを書いている。	87	・タブレットを使って友達の見聞を閲覧できるようにしたことで、友達の見聞を参考にして自分の考えをもち、書くことができるようになった。 ・教員と児童の評価の差がある。書く活動を行っているが、「内容の明確化」はできていないと感じている教員がいると考えられる。	・今後は、タブレットを活用して、考えを交流したり、交流したことから考えたことを書けるようになるようにする。 ・教員と児童の評価の差がある。書く活動を行っているが、「内容の明確化」はできていないと感じている教員がいると考えられる。	A	・タブレットの対応に感謝している。 ・目標に対してしっかりと改善しようとしている学校の意識をしっかりと感じることができる。
					③	80%以上の教科及び単元で実施	3	児童のできているという評価70%以上	⑤	4.0						
					2	70%以上の教科及び単元で実施	2	児童のできているという評価60%以上	⑥	3.3						
保護者や地域との連携	保護者・地域育と活動の推進	7 経	家庭や地域への積極的な情報提供	学校ホームページを適切に更新する。	4	学年や専科で1か月に1回以上更新	④	保護者の持っているという評価80%以上	①	2.9	保護者	97	・保護者が掲載状況を確認し、高評価となったことが、今後の日々の関わりにつながる。 ・ホームページ担当を設けたことで、頻りに掲載できた。学校によりQRコードを掲載したことでも広報になった。 ・授業中は授業に集中しており写真撮影ができないことが多いため、掲載時期や学年が偏ることもあるのは課題である。	・無理なく偏りなくホームページの更新を継続するために、スクールサポートスタッフや副校長業務支援員に、学習活動の撮影を依頼する。 ・校務分掌としてホームページ担当を設定し、学校だよりの作成と同様、経営支援部会で「来月の〇年生はどんな写真が撮れそうか」を確認する機会を設ける。計画を立てることで、月1回以上、学年の記事を掲載する。	A	・ホームページを、ほぼ毎日見ている。子どもたちの様子をたくさん見ることができて、とてもありがたい。 ・地域の者でもホームページで子どもたちの様子がわかり、楽しむことができる。 ・無理のない範囲で写真撮影をお願いしたい。 ・学校公開をオンラインで配信してほしい。
					③	学年や専科で2か月に1回更新	3	保護者の持っているという評価70%以上	②	3.0						
					2	学年や専科で学期に1回更新	2	保護者の持っているという評価60%以上	③	1.5						
		8 健	誠実かつ迅速に対応する組織運営	校内での報告、連絡、相談を迅速に行い、保護者の質問や相談に誠実かつ組織的に対応する。	④	事案発生直後	④	保護者の対応しているという評価80%以上	①	3.3	保護者	96	・保護者からの相談に対して、迅速に対応することをお掛けし、実行したことが高い評価につながったとされている。 ・学校は、保護者からの相談に迅速・誠実に対応している。	・引き続き、保護者からの相談には、迅速に対応し、必要に応じて全教職員でよりよい対応策を考えていく。 ・安心して児童が学校生活を送れるように、全教職員が報告、連絡、相談を徹底し、共通理解をして教育活動を行っていく。	A	・芝久保小は保護者からの対応がとても速く安心している。 ・一つの事案を教員の皆さんで共有するということが、今後も続けてほしい。
					3	事案発生当日	3	保護者の対応しているという評価70%以上	②	3.5						
					2	事案発生翌日	2	保護者の対応しているという評価60%以上	③	3.0						
業務の改善・働き方改革	働き方改革の推進	9 経	働きやすい環境づくり	担当している教室等の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）を実施する。	④	週に1回以上実施	④	教職員の実施しているという評価80%以上	①	4.0	教職員	100	・日常的な整理整頓や消毒作業は継続しており、児童の清掃活動も感染防止に支障のない範囲で行っている。 ・職員室の机上フラット化の取組が、各教室の整理整頓への意識にもつながったと思われる。 ・校内の空き教室の整備が必要である。物品移動や整理に大人数で作業したいが、日々の授業の中で時間設定は厳しい。	・コロナ禍で床の雑巾がけを控えているので、床の掃除用にスポンジモップを購入した。また、空気清浄機・二酸化炭素濃度測定器・掃除機（専科教室）などを購入したので、今後活用して、さらに清潔な教室環境を作っていく。 ・放課後の短時間を計画的に作業時間として設定するなどして、次年度に向けての教室環境を整備していく。	A	・二酸化炭素計など、目視で指標になる機器類の導入はとてもよいと思う。 ・掃除機や掃除ロボットを使って簡単にできるようにしてはと思う。 ・仕事量に対する適切な職員配置がされるとよいのかと思う。
					3	月に2回実施	3	教職員の実施しているという評価70%以上	②	3.5						
					2	月に1回実施	2	教職員の実施しているという評価60%以上	③	3.5						
		10 経	教職員の負担感の軽減	「学校における働き方改革推進プラン」（市教委）をふまえて、週の在校時間を53時間以内にするために、平日の1日当たりの在校時間を10時間以内とする。	4	週に3回以上	4	平日の在校時間を10時間以内にするという評価80%以上	①	3.0	教職員	50	・平日の在校時間10時間以内が週3回以上は30%、2回は20%にとどまった。 ・コロナにより行事を縮小したが、新たな計画立案や、オンライン授業により2学期の授業や行事が過密になり、厳しい結果となった。 ・在校時間確認週間を設定したら、その週の在校時間平均10時間以内または10時間前後の教員が増えた。	・在校時間を減らすためには仕事量を減らす必要がある。行事等は、前例踏襲ではなく、準備時間の削減を図りながら充実した行事になるよう、見直しをしていく。他にも、他校の実践を活用して計画立案、定時退勤日の各自設定、在校時間の日常的な把握などに取組みながら、働き方改革に取り組んでいく。	A	・分析、改善ともに十分にされている。業務削減を図りながら充実した行事構築を目指して感謝している。 ・児童の健康も大切だが、教職員の健康も同じく大切。 ・教職員の在校時間を減らすのは必要でも大変だと思う。 ・とても難しいと思うが取り組んでほしい。 ・自宅に持ち帰っては意味がないので、業務の見直しや仕事時間を決めてやってほしい。
					③	週に2回	3	平日の在校時間を10時間以内にするという評価70%以上	②	3.5						
					2	週に1回	2	平日の在校時間を10時間以内にするという評価60%以上	③	2.0						
1	週に1回未満	①	平日の在校時間を10時間以内にするという評価60%未満	④	1.5											